

市民・企業・行政をつなぎ、新たな魅力や価値を生み出すコミュニティ・ハブ(結節点)



●市民の多様なニーズの受け皿となり、市民と成長するれんこん広場

- ・門真市に所縁のある「れんこん」を広場計画に取り入れ、「れんこん」の穴が10あることをユニークに援用し、異なる10の素材やキャラクターによって広場を構成します。
- ・大きな敷地を適切なサイズに細分化することで、小さな市民団体でも主体的にコミットしやすい広場となり、市民の多様な利用を誘発します。
- ・抽象的な広場・公園の概念から、一人ひとりが当事者になれる広場の集合体をつくります。

2 庁舎エリアが目指す姿を実現する基本指針

●庁舎エリアの5つの結節点を生かした基本指針

基本構想やみらいコンセプトブックの方向性と、庁舎エリアがもつ5つの結節点を生かし、庁舎エリアが目指す姿を具体化する基本指針を提案します。

- 1 市民・企業・行政 が交わる場** **Living** ▶ 寄りどころへ
市民・企業・行政など、誰一人取り残さず、多様な価値観の人々が日常的に立ち寄り、居場所となることで、非常時にも寄りどころになる
- 2 日本の発展を支えてきた 産業** **Creative** ▶ 価値創造拠点へ
日本有数の大企業から小さな町工場まで、多様なものづくりの現場が存在し、日本の発展を支えてきた門真。暮らしの場と働く場が混在する門真だからこそ、市民・企業・行政が三位一体となったまちづくりを実現するための拠点となり得る。誰もがいきいき活動でき、交わることで、新たな価値を創造する。
- 3 まちづくりを活発化させる エリア** **Media** ▶ 門真市のハブへ
門真市駅・西三荘、古川橋、北小など公民連携まちづくりを推進するエリアと、大和田・北島・三ツ島・四宮など外縁部のエリアから市民等が訪れる。庁舎エリアはそれぞれのエリアの「個性」をつなぎ、「発信」し、市全体を発展させる「求心力」をもつ。
- 4 関西の東西・南北をつなぐ 交通** **Media** ▶ 国内外のハブへ
大阪モノレールの延伸など、大阪・京都・滋賀をつなぐ東西軸、伊丹空港から門真・東大阪のものづくりエリアの南北軸をつなぐ関西・国内外のハブとしての可能性が高まる。
- 5 公民連携を推進する 市職員** **Creative** ▶ WORK から PLAY へ
公民連携には部門を超えた横断的連携が必須となる。あらゆる部門が市民・企業とのパートナーシップをもって、門真の課題解決、魅力創造にクリエイティブに取り組む。

3 門真市の「コミュニティ・ハブ」

●基本計画～運営まで一貫した庁舎コンセプト

基本構想が示すコンセプト「みんなで描き、みんなでつなぐ、このまちがキャンパスに」を実現するため、庁舎エリアを5つの結節点（エリア、産業、市民・企業・行政、交通、市職員）を生み出す「門真市のコミュニティ・ハブ」と位置付けます。

庁舎エリアが、市民・事業者・企業など多様なプレイヤーの結節点となり、公民連携や市民協働に積極的に取り組む場となることで、門真の地域資源(ものづくり・文化・芸術等)を生かした新たな魅力や価値を創造するキャンパスとなることを目指します。また、公民連携の効果を最大限に高めるためには、セクショナリズムを取り払い、関係するセクションが相互に連携しあう横断的な組織、職員ひとりひとりがプレイヤーとして、いきいきと楽しく能動的に働くマインドも重要です。

コミュニティ・ハブ実現のために、5つの結節点を生かす庁舎エリアの3つの役割として、Living/Creative/Mediaを提案します。



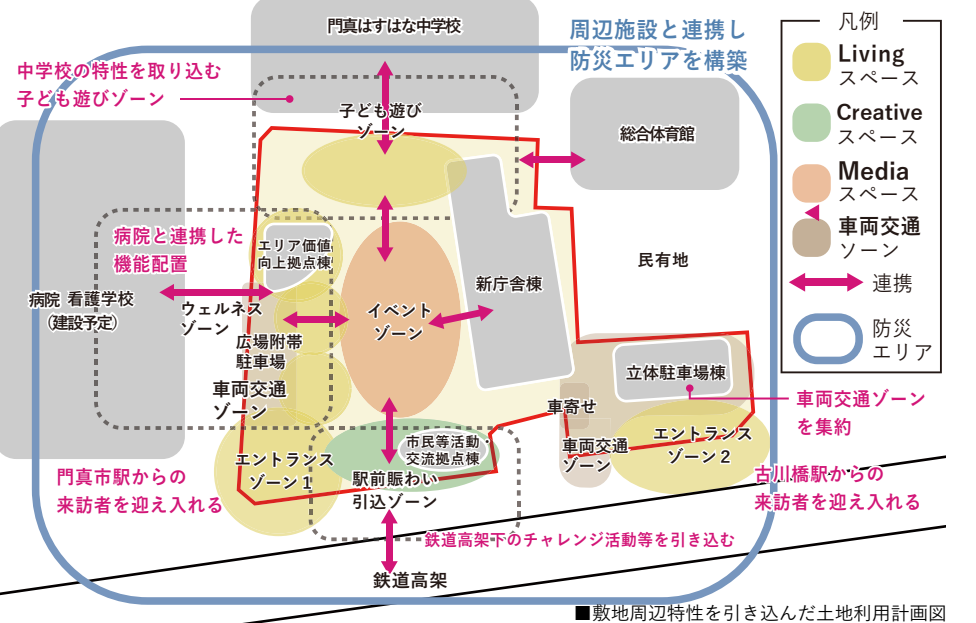
1 周辺環境の特性を踏まえた庁舎エリア内の土地利用計画

●周辺の特性を引き込む土地利用計画

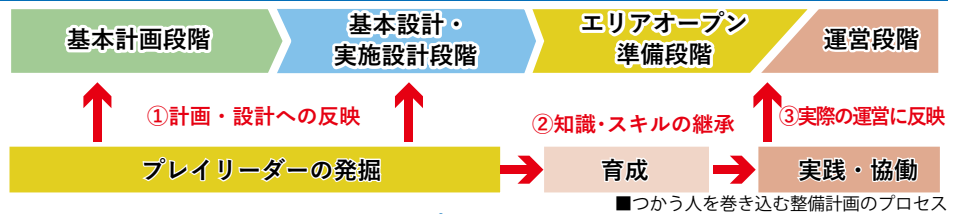
- ・古川橋駅、門真市駅からのアクセスのしやすさに配慮したエントランスゾーンを計画します。
- ・エリア価値向上拠点にクリニックを計画し、敷地西側の病院（建設予定）との機能連携を図る等、周辺施設の特性を取り込んだゾーニング計画とします。
- ・多様なゾーン配置とともに敷地中央には各ゾーンと臨機応変に連携できるイベントゾーンを計画します。

●市域を踏まえた車両ゾーンの配置計画

- ・市域が敷地南東側に広がる門真市の特長を踏まえ、庁舎エリア南東に駐車場及び車寄せ等の車両交通ゾーンを集約します。



4 Living/Creative/Media を基にした運営方針



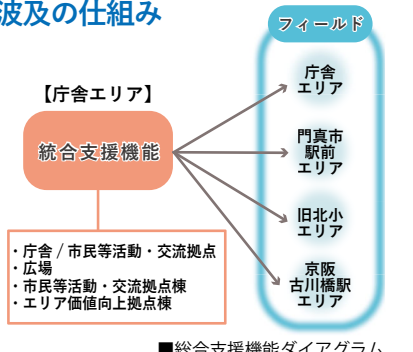
●PDO方式だからこそ実現できるプロセス

- ・計画段階から「つかう人」を巻き込み、少し先の庁舎エリア及び周辺エリアの将来イメージを共有しながら、庁舎や広場整備の計画及び設計へ反映します。
- ・地域からプレイリーダーを発掘し、知識・スキルを継承・育成することで、地域参画型の運営が実現します。
- ・各エリアのまちづくりの核となる人・組織を支援する統合支援機能として、庁舎エリアの運営を通じて、門真市全体のまちづくりを活性化します。

●統合支援機能の概念と庁舎周辺エリアへの波及の仕組み

Living/Creative/Mediaを元にした運営方針として、庁舎を周辺エリアとの統合支援機能と位置付け、街全体へ賑わいや活動が波及していく仕組みをつくります。

- ① フィールドと周辺エリアを包含して全体を統合していく
- ② 誰もが役割をみつけ、いきいきと活動できる(Well-being)
- ③ 供用開始とともに市民が庁舎エリアで活動していく
- ④ 庁舎エリアでの活動に還元し、それを活かし、門真らしいオリジナリティのある施設運営を行う



■統合支援機能ダイアグラム
提案書番号：さつき

5 門真の活気がつくるエントランス拠点としての景観

●門真らしさを体現するおおらかな景観づくり

新庁舎棟は門真はすはな中学校や京阪電鉄高架橋の高さと合わせた低層とします。

3つの建物によって広場を囲むスカイラインを形成し、エリア一体の景観の調和を図ります。



■京阪電車から庁舎エリアを見渡す

●市民とともに作り上げるファサードデザイン

キャンパスウィンドウには気候や季節を考慮し、カーテンを設ける計画とします。市民や職員とともにカーテンを開け閉める イベントを開催することで、新庁舎棟のファサードは季節によって変化する門真の新しい季節の風物詩となります。

全長 約 120m キャンパスウィンドウ



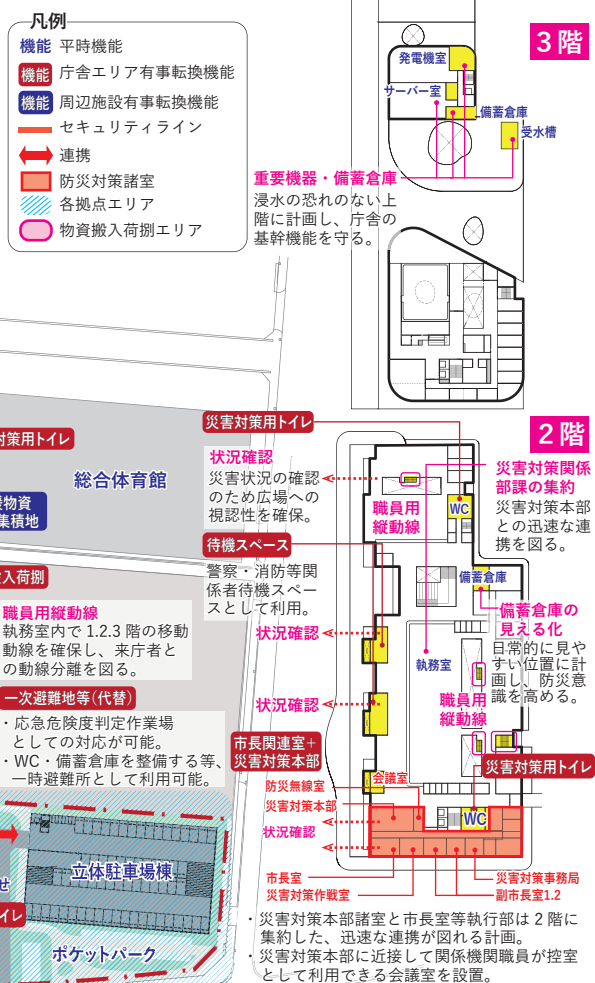
■西側ファサード～キャンパスウィンドウ～(春の様子、カーテン閉)

8 市民を守り、市民に長く親しまれるレジリエントな庁舎づくり

●市民が頼りにする安心で安全な庁舎

あらゆる災害に強い敷地全体が災害対策拠点になる5つの工夫

- ① 多方面からのアクセスを考慮した施設配置
- ② 防災広場全体を活かす周辺施設との連携システム
- ③ 災害対策本部の強化のための室配置
- ④ フェーズフリーな施設構成により災害時に柔軟に機能転換する
- ⑤ 日常から防災情報を発信し、市民一人ひとりの防災意識を高める



6 シビックコンコース × 市民等活動交流

●シビックコンコースの3つの役割

L Living

まちに開かれた多様性と寛容性のある居心地の良いリビング空間を計画します。

C Creative

みらいの門真を創造する活動の中心となる賑わい拠点を計画します。

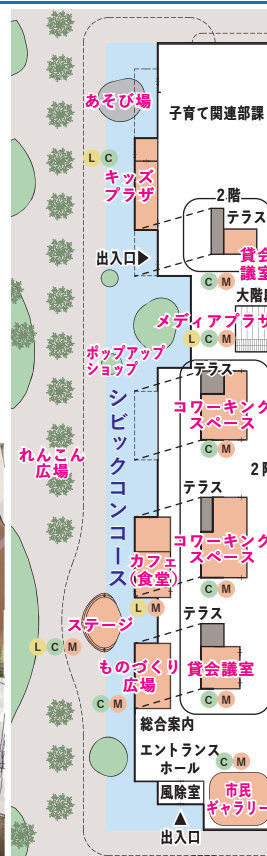
M Media

門真のみんなの情報を受信・発信し、人と人を結ぶ情報拠点を計画します。

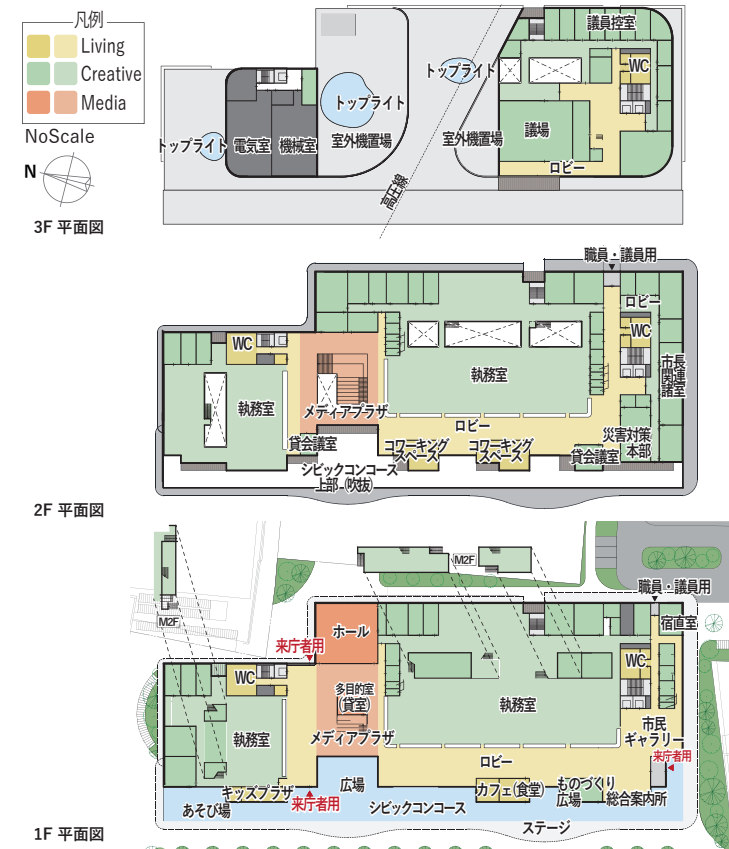
庁舎と広場をつなぐシビックコンコースは、あらゆる活動や交流の相乗効果を生み出します。また、市民・企業・行政すべての人の居場所を作り、あらゆる活動を支え、発信する環境を担います。



■シビックコンコースでの活動・交流

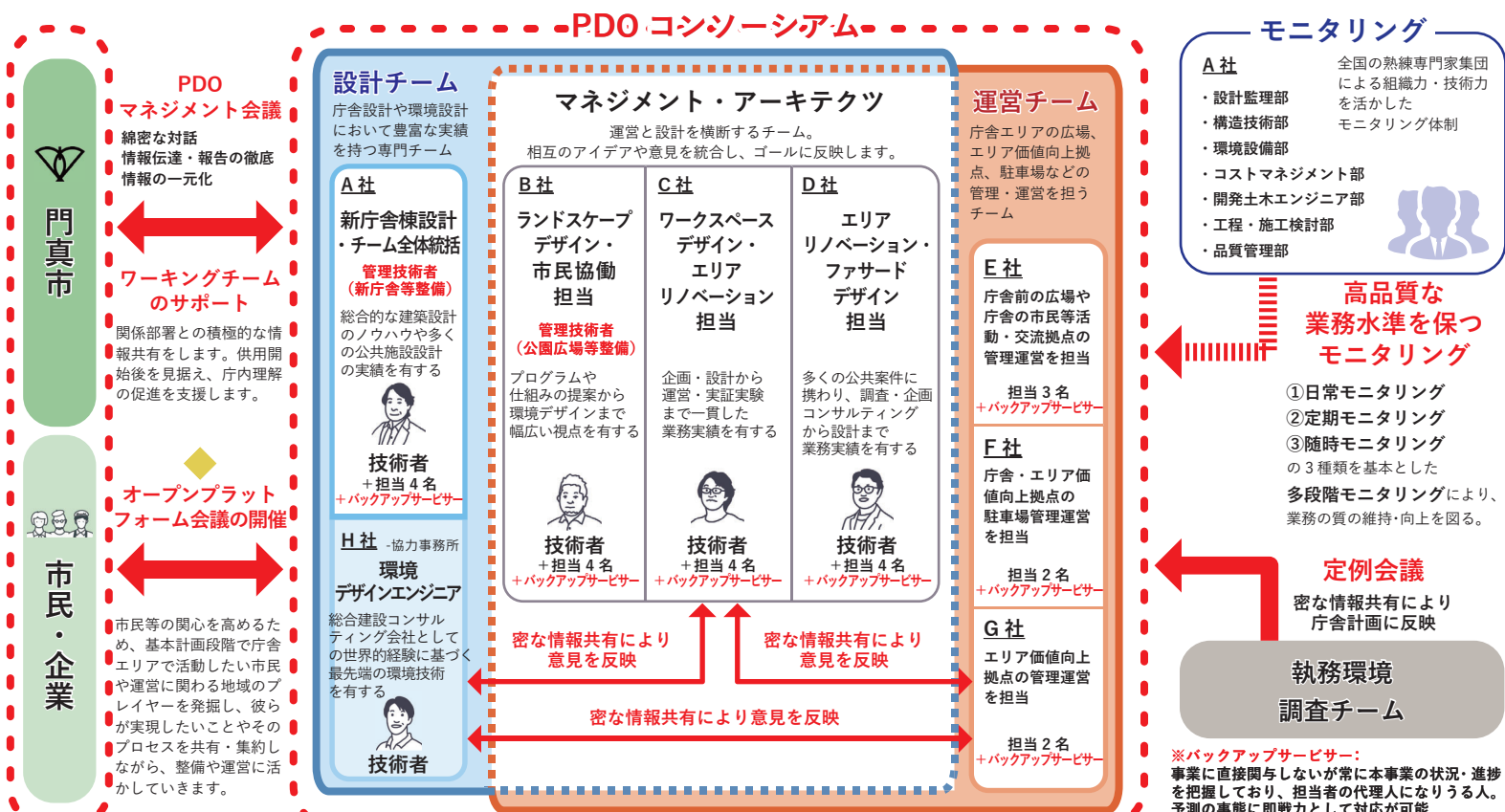


7 誰もが使いやすい明確なゾーニング計画



9 実績豊富な企業と地域を知り尽くした企業によるマネジメント体制

設計と運営の両実績を持つマネジメント・アーキテクトが関係者と密に連携を取り、設計チームと運営チームの情報を円滑し共有/計画を統合します。企画・設計から運営まで一貫通貫で取り組み、エリアの魅力と価値を再編します。



10 提案価格

基本計画業務提案価格：¥ 34,000,000 (税抜)